

真夏の「有松めぐり」

猛暑のなか時間をやりくりして「有松めぐり」に出かけた。金山から名鉄に乗り、話題になった駅前再活潑で整備された有松駅に降り立った。

駅からすこし歩いて旧東海道に入ると、なんだか落ち着いた気分になった。駆け足で有松の町並みを散策したが、なまこ壁やうだつが上がる江戸情緒の商家が立ち並び、歴史と風格を感じさせた。「400年の歴史と絞りの里」有松である。残念ながら町並みの向こうに高速道路が目に入ってしまい、せっかくの景観も台無しだ。

有松は慶長13年(1608年)、東海道に生まれた町である。阿久比庄(現在の知多郡阿久比町)から移住した竹田庄九郎はじめ8名により開かれ、絞りの名産地として発展したという。絞り会館で有松まちづくりの会『有松』60号を入手した。それに副会長の竹田嘉兵衛さんが「有松開村400年を終えて」を寄稿しており参考になった。

7月9日付の中日新聞は江戸時代末期建造の町家が取り壊されようとしているとして、「有松の市民団体 市長にSOS」と報じた。有松の東海道沿い約800メートルは市の歴史的町並み保存地区。市教育委員会によると、今回の町家も含め、25年前に52あった伝統的建造物のうち3割が失われたという。名古屋市の対応が注目される。



(2009年8月24日 記)